

特別  
支援教育  
×  
道徳

みんなで  
考え、  
伝え合う  
道徳授業の  
ヒント

- ① 知っておきたい! 通常学級における特別支援教育
- ② 大切にしたい、道徳科での合理的配慮
- ③ 明日から使える! 授業づくりのアイデア集
- ④ 全員参加で考え、話し合うために
- ⑤ ICT活用で広がる道徳科授業の可能性  
～生成AIを教材作成に活用した授業実践レポート～
- ⑥ Q&A

日置 健児朗

(熊本県立熊本聾学校 教諭)

# 知っておきたい！ 通常学級における特別支援教育

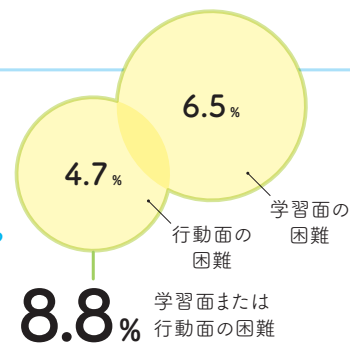
## ▶ 今、教育現場で起きていること

通常の学級に在籍する「学習面または行動面で著しい困難を示す」子どもの割合は、この数年間で増加の傾向にあります。背景には、特別支援教育の理解が広がり、今まで見過ごされてきた子どもたちへの個別最適な学びのための、さらなる支援や配慮が求められてきたことがあります。これは大きな変化であり、全ての先生がたが直面している課題です。

インクルーシブな学びを進めるために、まずは先生自身の「思い込み(バイアス)」がないかを多面的・多角的な視点で見つめ直してみましょう。そして、誰一人取り残すことなく、一人一人に合った学びを支える支援や配慮、授業づくりについて考えていきましょう。

通常学級に在籍する  
特別な教育的支援を必要とする  
児童生徒の割合(小・中学校)

出典:文部科学省「通常の学級に在籍する特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査結果」(令和4年)



### インクルーシブな学びを遠ざけるバイアスの例

- 子どもの学習上の困難の原因を、環境ではなく本人のやる気や能力の問題だと考えること。
- 支援や配慮を必要とする子どもへの個別の対応を、「特別扱い」や「不公平」だと考えること。

## ▶ 実態把握(アセスメント)をしてみましょう

効果的なサポートをするには、表面的な「困った行動」や「学習の遅れ」に対応するだけでは不十分です。その行動や困難を引き起こしている根本的な要因を深く理解するための、丁寧な実態把握がとても大切です。

### 実態把握に必要な三つの視点

**個人の特性:** その子の知的発達、認知特性、感覚・運動特性、情緒面など

**環境要因:** その子を取り巻く学習環境、人間関係、家庭環境など

**行動の理由:** 子どもがその行動を起こすことで求めている、または得たいことなど

これらの情報を整理して、具体的な支援や配慮を考えてみましょう。

### さまざまな認知特性の例



#### POINT!

### 気になる言動の「なぜ?」がわかるABC分析の活用

気になる言動の背景要因がなかなか見えない場合には、それらの言動の見取りや子どもとの関わりをとおして得た気づきをもとに、分析をしてみましょう。分析方法にはさまざまなものがありますが、その一つに「ABC分析」があります。

「ABC分析」では、【Behavior: 行動】の前後にある【Antecedent: 先行事象】や【Consequence: 結果】をあわせて記録します。それらを整理・分析することで、困った行動の背景を客観的に探ることができ、本質的で具体的な支援を考えるための大切なベースになります。

## “支援”って、どういうこと？

直接的な行動などを通じて、子どもの活動や生活を「手助けすること」です。本人の能力そのものを伸ばすことを目的としており、子ども自身へアプローチします。（例：困っている子に声をかけ、一緒に取り組む）



それぞれの目的や方法の違いを理解したうえで、その子の実態に応じて柔軟に選択したり、組み合わせたりしましょう。

## “配慮”って、どういうこと？

子どもの気持ちや立場、状況を思いやって、環境を整えたり、態度を工夫したりすることです。子どもにとっての障壁を取り除くことを目的としており、環境や条件を調整します。（例：総ルビの教材やプリントを使用する）



## ▶ 誰一人取り残さない！ 個別最適な学びにつなげるユニバーサルデザイン

子どもの「困っている理由」や「どんな環境なら安心して学べるか」が見えてきたら、教室や授業の枠組みをデザインしましょう。ユニバーサルデザイン(UD)とは、全ての子どもが多様なニーズをあらかじめ想定し、障がいの有無にかかわらず誰もが安心して学びやすい環境を事前に整えておくための考え方です。この考え方にに基づき、授業の目標や教材、支援・配慮を柔軟にデザインし、学級や学校全体で教育環境等を構築していきます。

「授業のユニバーサルデザイン」は先生による学習環境の整備に、「学びのユニバーサルデザイン」は子どもの主体性や自己決定に主眼を置いています。それぞれ手段は異なりますが、目指す目標は同じ「障がいの有無にかかわらず全ての子どもたちに学びを届けること」です。二つの視点を大切に、授業を組み立てていきましょう。



### 授業UD: 授業のユニバーサルデザイン

先生の授業デザインの工夫や指導が中心です。「視覚化」「焦点化」「共有化」などが具体的な指導技術として挙げられます。授業UDは、一度の実践で終わらず、PDCAサイクルでの授業改善やカリキュラムマネジメントと一体となって継続的に行われます。

**視覚化:** 学習内容などの情報を視覚的に示し、見てわかるようにすること

**焦点化:** 学習のめあてや活動内容を絞ってシンプルに示すこと

**共有化:** 学びを共有し合い、考えを広げること

### UDL: 学びのユニバーサルデザイン

子ども一人一人の学び方に合う、進め方の提示や選択が中心です。事前に、①情報の理解(認知)、②学習への取り組み方や表現、③学習への動機づけのための多様な選択肢を準備し、子ども自身が選択できるようにすることで、子どもの主体性を大切に、個別最適な学びの実現を目指します。

#### 多様な選択肢の例:

ICTを活用し、聴覚優位の子どもが読み上げ機能を利用したり、視覚優位の子どもが動画や画像などのマルチメディア資料にアクセスしたりできるようにする。

# 大切にしたい、 道徳科での合理的配慮

「ユニバーサルデザイン」が“特定の誰か”ではなく“クラスの子ども全員”に対して環境を調整するという考え方であるのに対し、個別のニーズや要請に応じた調整や支援のことを「合理的配慮」といいます。ユニバーサルデザインで全ての子どもたちへの配慮を行いながら、一人一人の状況に応じて適切に「合理的配慮」を講じていく必要があります。

## ▶「合理的配慮」って、どういうこと？

合理的配慮とは、障がいのある人が他の人々と平等な機会をもてるよう、社会的な障壁（バリア）を取り除くために必要かつ適切な変更や調整を行うことです。変更や調整の内容は、先生と子どもだけでなく、保護者や学校とも合意形成を図ったうえで決められることが望ましいとされています。これは、一人一人に合った学びを保障し、インクルーシブ教育を具体的に進めることにつながります。

子どもから意思表示があった場合には「わがまま」と捉えないことが大切です。意思表示の背景には、自己理解の未熟さや、伝えることへの心理的な不安、あるいは語彙不足による表現や表出の難しさなどが隠れているかもしれません。子どもとの丁寧な対話をとおして背景要因を探ったり（→p.2）、先生のほうから選択肢を提示したりすることも大切です。

障害者差別解消法<sup>※</sup>では、障がいのある人とない人が互いを尊重し、ともに生きる社会の実現を目指しています。この法律は、障がいを理由とした「不当な差別的な扱い」を禁止するとともに、「合理的配慮の提供」を求めています。

※正式名称：障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律



合理的配慮を受けることは、子どもが本来の力を発揮し、ともに学んでいくための正当な権利です。

## ▶具体的な配慮例 ① 表出方法に困難がある場合

### 困難さの状況

語彙力不足や言葉での意思伝達の難しさから、伝わらないことで不適切な言動につながってしまうことがあります。

### 道徳を 学ぶうえでの困難さ

気持ちや考えを伝えるための語彙が思いつかない（それにより複数の気持ちの整理が難しい）ことや、表情や態度での伝え方がわからないことがあります。

### 具体的な配慮・支援

#### 表情イラストと語彙を 組み合わせたカードの活用：

「すごい!」「なるほど!」「おもしろい」などの言葉と表情イラストを組み合わせたカードを準備し、気持ちを表現することを助けます。

#### 対話を通じた思考の 整理・可視化：

先生が子どもとやりとりしながら、気持ちや考えを引き出し、ミニホワイトボードなどを活用して箇条書きにして提示します。伝えたい思いを一緒に確認して整理しましょう。



白紙のカードも準備しておき、選択肢にない気持ちを書き加えて提示できるようにします。

## ▶ 具体的な配慮例 ② 集中力の持続に困難がある場合

### 困難さの状況

多動性や衝動性により、「ルールを守る気がない」「危険な行為をしている」ように受け止められてしまうことがあります。

### 道徳を学ぶうえでの困難さ

手を挙げずに発言したり、他の人が話している途中で遮って発言したりする衝動性が見られることがあります。

また、道徳的な価値観は抽象度が高いため、これまでの体験や具体的な行動と結びつけて考えることが難しく、「何について話し合っているのかわからない」状況になったり、興味・関心や注意を保ち続けることが難しくなったりすることがあります。

### 具体的な配慮・支援

#### 学習活動の短時間での切り替えやスモールステップ化：

教材を短く区切り、「読む」「書く」「話し合う」「動く(例:役割演技)」といった活動を短時間で切り替えていくことで、内容を見通しながら、集中して取り組めるようにします。また、子どもが質問できたり、落ち着いて活動に取り組めたりした時には、小さなことでも見逃さず、短い言葉ですぐに褒めましょう。「授業にしっかり参加できた。楽しい。」という実感が、子どもの自信へとつながります。

#### 身近な例への置きかえや視覚情報の提示：

学級生活や学校行事などの特別活動において、子どもたちが実際に体験した出来事を事例として取り上げ、その時の写真を見せながら振り返ります。経験や視覚的な手がかりをもとに、自分ごととして考えたり、当時の気持ちを思い出して対比したりすることで、実感を伴った深い学びが生まれます。

#### POINT!

### 日常とつなげよう！ 合理的配慮と ユニバーサルデザイン

合理的配慮やユニバーサルデザインについて知ることは、先生だけでなく子どもたちにとっても大切です。日常生活の中での行動や意識づけにつながるような活動の例をご紹介します。

#### 活動例 ①

学校内にあるさまざまな表示を探し、意味を調べたり、活用場面について考えたりする活動を行う。

#### 活動例 ②

校外学習で訪れる施設やふだんの買い物で「コミュニケーション支援ボード」などのツールを活用して意思を示したり、支援者として相手の意思をくみながら交流したりする体験をする。

#### ●合理的配慮の例：コミュニケーション支援ボードの活用、文字の拡大など



「コミュニケーション支援ボード」(公益財団法人 明治安田こころの健康財団)

#### ●ユニバーサルデザインの例：ピクトグラムの表示など



避難口誘導灯



道路標識(横断歩道)



駅構内の案内表示

# 明日から使える！ 授業づくりのアイデア集

配慮や支援を必要とする子どもを含めた全員が楽しく学ぶためには、「心理的安全性(=集団の居心地のよさ)」と「安心して自分の考えを深められる環境(=個人の学びに配慮された環境)」を整えることが重要です。抽象的な道徳的価値を扱う道徳科では特に、一人一人の特性や発達段階を適切に把握したうえで、適切に教材を選択・活用し、多様な表現方法で提示・発問するといった工夫が求められます。これらの工夫は、子どもたちの主体的な学びを促し、道徳科の授業が「自分と社会のつながりを考える楽しい時間」へと変わる大きな一歩となるでしょう。先生の発想の転換と柔軟な実践が、子どもたちとともに授業をつくり、楽しく学びを深める鍵となります。

## ▶ 楽しくて安心な環境づくり

日頃から子どもどうして声をかけやすく、話しやすい雰囲気を整えておくことで、心理的安全性が生まれ、教室は安心感と楽しさの中で自分の考えを表現できる場となります。「自分の気持ちや考えを話してもいいんだ」と感じられることで、授業内での発言が増え、さらに他者の思いや考えを受け入れる姿勢につながっていきます。

うなずきなどの相づちや、「わかった!」「いいね!」などの共感の言葉を送り合ひましょう。

さらに、先生自身が考えや気持ちを伝えたり、よさを認め励ましたりすることで、より共感的な場へと発展していきます。

### POINT!

#### 「語り合いたくなる」 道徳へ!

心理的安全性が確保されると、子どもたちはたてまえではなく本音で語り合えるようになり、学びを「自分ごと」として深めていくことにつながります。まずは、学級でグランドルールを決めてみましょう。

#### グランドルールの例:

相手の話を最後まで聞く、否定しない、相づちやうなずきをする、聞いているだけでもいいよ、無理に発言しなくてもよい、など。



## ▶ 感覚に訴える教材提示の工夫

学級の中には、文字から情報を得るのが得意な子もいれば、映像や図などの視覚情報の処理が得意な子や、音から感情などを読み取るのが得意な子もいます。感覚に訴える教材提示やツールの活用を意識することで、さまざまな認知特性をもつ子どもたちの教材理解や思考を助けることができます。

ここでは、情報を視覚的にわかりやすく伝え、子どもの思考を刺激する工夫をご紹介します。

### 工夫1 心情を「見える化」する

文章の傍らに表情マーク(にこにこ、しくしくなど)を付箋やシール、直接の書き込みなどで示します。視覚的にポイントを示すことで、登場人物の言動や心情を考えるきっかけになります。

同じ表情マークを使用したワークシートを活用すると、自分の考えや気持ちを整理しやすくなります。




## 工夫2 情報を「焦点化」&「補足」する

考えてほしい場面を抽出し、教材内のイラストを部分的に提示しましょう。教材内のイラストだけでは捉えにくかったり、意味の理解が難しかったりする場合には、補足としてわかりやすい画像やイラストを提示します。先生がわかりやすい言葉で簡潔に補足説明すると、より理解が深まります。

鳥の巣と、割れた窓ガラスが描かれている部分をトリミングして拡大印刷したものを提示することで、登場人物の雄一が窓ガラスを割ってしまった状況を整理しやすくなります。サッカーボールや猫のイラストを用意して実際に動かし、再現してみるのもよいでしょう。

**裏庭でのできごと**

友達関係





大輔 健二 雄一

**一枚め**

割った人： **雄一**

理由：  
猫からひなを助けようとして






体育館の裏庭でサッカー

**二枚め**

割った人： **健二**

理由：  
大輔とボールを蹴って遊んでいて



「裏庭でのできごと」の板書例(文部省編/「道徳教育推進指導資料」中学校 主として自分自身に関すること)

©鈴木びんこ

## ▶ 気持ちを引き出す「発問と声かけ」

### 「問いカード」の提示

イラスト入りの「問いカード」を作成し、やさしい言葉の選択肢から選ぶようにすると、子どもが考える際の助けになります。

選んだほうに○をつけたり、拳手したりして意見を表現できるようにすることで、発言するのが苦手な子どもも含めた全員が授業に参加できます。さらに、同じ意見や異なる意見の人の数が可視化されるため、「他の人の考えを聞いてみたい」という意欲にもつながります。

一人で取り組むことが多い  
たつやさん。あなたなら  
どうしますか。

- ① 声をかける
- ② そのままにする



「問いカード」の例

### 先生が気持ちを「翻訳」する支援

自分の気持ちや考えを言葉にするのが難しい子のために、先生がその思いをくみ取り、代わりにわかりやすい言葉にすること(言語化)で、自己理解や他者との共有を助けます。また、抽象的な道徳的価値を、身近な言葉や具体的な事柄、視覚的な情報に置きかえて伝えることも大切です。(代弁的・翻訳的(補助自我)支援)

**参考文献:**日置健児朗ほか、「知的障害特別支援学校 中学部での道徳的価値を育む授業づくり:『特別の教科 道徳』における授業内容設定の考え方と代弁的・翻訳的な(補助自我)支援の在り方」『熊本大学教育実践研究』第38号,2021,p.123-128.

### ファシリテートの工夫

「なるほど、素敵な気持ちだね」「わかるよ。そう思ったり、感じたりしたことを教えてくれるかな?」など、温かい相づちを含めた問い返しをすることが、子どもたちの意見を引き出す極意です。「受け入れてもらえた」という安心感から、子どもは自分の気持ちや考えを述べやすくなります。

また、先生が聞いた意見を他の子どもへ広げていくことで、「同じ考えだね」「もっと別の意見もあるよ」といった子どもどうしでの対話が生まれ、学びの深まりにもつながります。



参考:田代めぐみ「ファシリテーションの天才」

# 4

## 全員参加で考え、話し合うために

道徳科の授業で、全ての子どもが心を開き、真剣にテーマと向き合うためには、「どのように考えるか」だけでなく、「どのように表現するか」という選択肢を広げることが大切です。インクルーシブな学びの場をデザインする際に、多様な表現方法を取り入れることは、子ども一人一人の「参加したい」という気持ちを引き出す鍵となります。

### ▶ 授業デザインのポイントをおさえよう!

授業前	フリートーク	心理的安全性の確保	授業前の3分間で行い、授業で発言しやすい空気をつくる。
	アイスブレイク	環境の設定	本時の内容につながる体験的な動きがあるものを行い、学びに向かう環境を整える。
	学習内容の確認	焦点化・視覚化	めあてや授業の流れを視覚的に示し、これから考えることや行うことの見通しをもたせる。
	教材の提示	日常生活との関連づけ	画像などで視覚的にサポートしながら、子どもの体験や経験を想起させる。
	発表・意見の交流	考えの整理・共有化	個人ワークやペアワーク、全体での発表をとおして、気持ちや考えを共有させる。
	振り返り	内省・適用化	授業で学んだことを整理する。自己を見つめ、学びを生活の中でどのように生かせるか考えさせる。

POINT!

### 対話が深まる アイスブレイクの 秘けつ

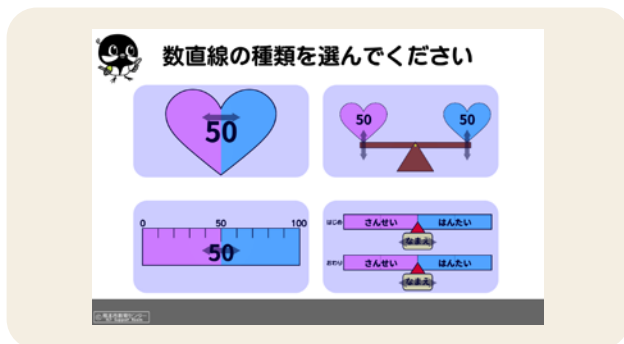
アイスブレイクは、「何を言っても否定されない」という安心感のある空気をつくる心のウォーミングアップです。例えば持久走を題材とした教材なら、いくつかのトークテーマ(例:「歩くのは速い?」「同じことを続けることは得意?」など)を用意しておき、ルーレットのアプリやくじ引きで当たったテーマについて子どもに話してもらいます。

先生もテーマに沿った自分のエピソードを話すことで、子どもとの心の距離が縮まります。「いいね」「わかる」などの言葉や態度で共感を伝え合うことも大切です。



### ▶ ツール活用で「話しやすさ」アップ♪

#### 心の数直線 (©熊本市教育センター)



気持ちを1%単位の数値や色で「見える化」できます。他の人の考えがひとめでわかるだけでなく、比べ合うことをとおして多様性に気づききっかけにもなります。子どもの実態や授業のねらいに応じたモード(ハート、天秤、グラフ、比較)を選んで使えることが魅力です。

#### 気持ちカード



「いいね」「もう少し聞きたい!」などの気持ちを書いたカードを作成して全員に配布し、発表時に自分の気持ちに近いものをあげてもらいます。発言が難しい子どもが参加しやすくなり、互いに気持ちを見合うことで、共感的な対話を生み出します。

# ICT活用で広がる 道徳科授業の可能性

## 生成AIを 教材作成に活用した 授業実践レポート

生成AIをはじめとするICTを活用することで、道徳科の授業には大きな可能性が広がります。

これらは「より深い」「よりその子に合った」学びの実現を可能にします。

子どもが従来の枠を超えた多様な視点や考え方を探求し、自ら考える力を育むための助けとなるでしょう。

それにより、授業が「自分ごととして深く考え」「他者や社会との関わりの中で生き方を学ぶ」場へと進化します。

### ▶ 実践の背景とねらい

私が勤務していた知的障害特別支援学校の小学部には、知的障がいやダウン症、自閉症、ADHDなど、多様な実態や発達段階の子どもが在籍していました。道徳の授業では、長文の読解や、複数の要素（登場人物やもの）を含む複雑な教材・場面絵からの内容理解に課題がありました。

そこで本実践では、生成AIを用いた「発達段階やわかりやすさを考慮した教材文」や「着目させたい要素に焦点化した場面絵」の作成と、ICT機器による視覚的な思考整理の補助に取り組み、全ての子どもが無理なく学びを深められる授業を目指しました。

### ▶ 授業準備でのICT活用ポイント

#### 生成AI

- 1 授業で深めたい内容項目やテーマを決め、学習指導要領の内容を確認しながら生成AIにプロンプト（命令文）を入力し、物語や場面絵を生成します。
- 2 生成した内容を、子どもの特性や発達段階を踏まえて検討します。先生自身の手で修正や補完を繰り返しながら内容を吟味・精選し、完成させます。

#### ロイノート・スクール（授業支援クラウド）

- 1 作成した物語や場面絵をテキストカードに貼り付けます。絵本をイメージして、文章の長さやイラストの配置などを調整します。必要に応じて、漢字に読み仮名をつけます。
- 2 録音機能を使い、テキストカードごとに、ゆっくり抑揚をつけて読み上げた音声を吹き込みます。

### ▶ 作成した教材：おやつを隠したうさぎの話

●主題…… 正直ってどんなこと？ ●内容項目…… A 正直、誠実

あらすじ：うさぎのびん太は、おかあさんうさぎからもらったニンジンをベッドの下に隠してしまいます。最初はうまく隠せたことに満足しますが、すぐにおかあさんうさぎに嘘をついたことへのうしろめたさを感じ、眠れなくなりました。翌朝、びん太は勇気を出して、ニンジンをおかあさんうさぎに伝えます。おかあさんうさぎはびん太を優しく抱きしめ、正直であることの大切さを教えます。



※これらの場面絵は、編集部が生成AIで作成したものです。

#### POINT!

#### おさえておきたい プロンプトの極意

学級の実態に合った教材を作成するには、生成AIに教材を読む「対象」、教材文や構造の「制約(ルール)」を具体的かつ端的に入力することがポイントです。(例：対象⇒「中学〇年生」「小学校低学年」 制約⇒「正直に素直に伝えることを理解する物語」「難しい言葉や比喩は使わない。」)

「氏名」や「固有名詞」は他の表現に書きかえましょう。(例：氏名⇒「Aさん」「生徒B」、固有名詞⇒「ある地方都市の中学校」「近隣の施設」)

※個人情報や機密情報、著作物、知的財産権に関する情報は入力しないように十分注意して利用しましょう。  
※情報セキュリティ確保のため、入力データをAIに学習させない設定にして利用しましょう。

## ▶ 授業でのICT活用ポイント

### 教材の提示

テキストカードのイラストを見たり、物語中の会話の内容を先生とやりとりしたりしながら、登場人物の気持ちや行動を考えます。

※これらの場面絵は、編集部が生成AIで作成したものです。



「こっそり かくしておこうかな」 そうおもった  
びよん太は、ベッドのしたに ニンジンをかくしました。



びよん太は うそをつくよりも、しょうじきにはなすのが  
きもちがよいことに きづいたのでした。

### 考えの整理・意見交換・発表

- イラスト入りの「問いカード」を作成して電子黒板に提示し、画面を指さして選択できるようにしたり、先生とやりとりしながら気持ちや考えを話したりできるようにします。
- ロイノートでテキストカードに気持ちや考えを書いたり、表情イラストを貼り付けたりします。共有機能を活用して全員のテキストカードを見られるようにし、意見交換をします。

### 振り返り

- 学校生活や日常生活の様子をイメージしやすいイラストや、子どもが実際に取り組んでいる姿の写真を電子黒板に提示することで、日頃の言動を振り返り、自分を見つめられるように促します。
- 友達の意見を電子黒板で共有することで、共感や考えの整理につながります。また、新たな視点から考えを深めるきっかけにもなります。(他方で、自分の考えを見られることに抵抗を感じる子どももいます。そうした場合は、子どもの承諾を得て先生だけが見るようにするなどのこまやかな配慮も必要です。)
- ロイノートで提出されたワークシートに先生がコメントや絵文字を記入して返すことで、すぐに評価を伝えることもできます。子どもの意見への価値付けとなり、自信につながります。

うそを つかれたら  
どんなきもちに なるかな？



「問いカード」の例

しょうじきにつたえる ことば

「ごめんなさい」 「ほく・わたしがしました」



提示資料の例

## ▶ 授業を振り返って



日頃は集中が続かない子どもも、場面を焦点化したイラストや、できるだけ短い文で作成した教材を活用したことで、物語に没頭し、内容を深く理解する姿が見られました。また、子どもとやりとりしながら登場人物の言動をわかりやすく解説したことで、自分の生活の姿と重ねて考えることができました。

子どもの実態に応じて、ICT機器やアプリ等を補助的に活用することで、内容理解や思考整理の助けとなり、より個別最適な学びへとつながりました。

# Q & A



Q

**抽象的な道徳的価値を「自分ごと」として捉えてもらうには、どうしたらよいですか？**



具体的な場面や感情を思い出す活動を取り入れることで、抽象的なものから自分のことへと切り替わっていきます。学校行事等の写真や役割演技をとおして、当時の心境を追体験してもらう方法も有効です。

先生や友達との対話も大切にしましょう。自分の思いを言葉にし、他者の多様な考えにふれることで、「自分の生き方に関わる大切な問い」であるという意識が芽生えます。

Q

**こだわりが強い子どもにも安心して授業に参加してもらうには、どのような環境づくりが必要ですか？**

授業全体を明確にし、子どもが見通しをもてるようにすることが大切です。予期せぬ状況や曖昧さは、不安やこだわりを強める原因になります。学習の流れや目標、活動内容、話し合いのルールや手順などを、事前に視覚的なカードやアプリ等で提示しましょう。子どもの実態に合わせて、活動量や時間などを柔軟に調整することも必要です。

Q

**子どもの実態に合わせた支援策を考えたいのですが、一人では支援のアイデアがすぐに思いつきません。**

生成AIをサポーターとして活用してみましょう。「特性に応じた道徳科での支援方法」や「補助教材のアイデア」など、検討したいことやサポートしてほしいことを具体的に入力して対話を重ねることで、アドバイスやさまざまな授業展開のアイデアを得ることができます。AIのヒントに先生自身が見取った子どもの実態や授業等での様子を掛け合わせることで、よりよい支援策が見えてくるはずで

Q

**登場人物の視点に立って考えることが苦手な子どもに対して、視点を切り替える助けとなるような工夫はありますか？**

登場人物の様子や表情、行動をまねるなどの動作化をしたり、登場人物になりきって演じる役割演技をしたりすることは、視点を切り替える助けになります。また、心理劇の手法を応用し、場面にある物(例:主人公が隠したニンジン)になりきることで、客観的に見つめる視点が生まれます。

Q

**言葉や文章で表現するのが苦手な子どもがいます。その子の「学び」や「心の動き」をどのように見取ればよいですか？**

発言や記述以外にも、子どもは必ず何らかのサインを出しています。目の動き、体の動きや姿勢、表情やため息など、さまざまな表出を「言葉」として捉えるようにしましょう。また、先生が「それは〇〇ということかな?」と代弁したり翻訳したりすることは、子どもの思考を整理するための支援であると同時に、大切な見取りの機会となります。



POINT!

**子どもの「特性」を伝えるコツ**

生成AIにその子の特性や実態を具体的かつ端的に伝えることで、より具体的なアドバイスを受けることができます。次の①～⑤のように、子どもの実態把握で得た基本的な情報や目標を簡潔にまとめておくとう便利です。

- ①学年: 中学1年生
- ②発達段階・特性: 気が散りやすく、周囲の刺激に反応してしまう。
- ③得意なこと・苦手なこと: (得意)単純な繰り返し作業、(苦手)複雑な工程の理解。
- ④人との関わりの様子: 友達が大好きで、授業中もつい話しかけてしまう。
- ⑤コミュニケーションの状況や手段など: 抽象的な言葉の理解が難しい。

※個人情報や機密情報、著作物、知的財産権に関する情報は入力しないように十分注意して利用しましょう。



## 日置健児朗

HIOKI Kenjiro

熊本県立熊本聾学校教諭。これまで知的、病弱、聴覚障害支援学校にて勤務。  
特別支援教育における道徳科での代弁的・翻訳的支援のあり方、  
ICTを活用した授業づくりなどを中心とした実践と研究に取り組んでいる。

先生も子どもと一緒に、これまでの歩みや道徳の学びを振り返りながら、  
ともに授業を創っていくという気持ちで臨んでみてはいかがでしょうか。  
子ども一人一人が「安心して参加できる」「居場所がある」と感じられる、  
温かい空間や雰囲気づくりを大切にしていきましょう。  
先生がたが、子ども一人一人を認め、褒め、励まし、ともに伸ばし合うことが、  
全ての子どもの可能性を広げます。

## チームで子どもを支えるという意識を！

先生どうしても互いに語り合い、認め合い、共感し合える環境づくりが大切です。  
ピア・サポート(同じ立場で、同じ課題に向き合っている仲間としての支え合い)の  
視点で関係を築き、チーム力を高めていきましょう！



支援や配慮について悩んだときには、  
次のような方法も有効です。  
一人で抱え込まずに相談しましょう！

特別支援教育  
コーディネーターや  
学年主任への相談

管理職も交えての  
校内支援委員会の開催、  
支援等の検討

特別支援学校の  
巡回相談の活用

福祉、医療等の  
関係機関との相談、連携

みんなで考え、伝え合う道徳授業のヒント 2026(令和8)年4月発行

 教育出版株式会社

教育DX編集本部 道徳科編集部  
〒135-0063 東京都江東区有明3-4-10 TFTビル西館  
TEL:03-5579-6278(代表)

### ●校閲

田代めぐみ 熊本県熊本市立河内中学校 校長  
本吉大介 熊本大学大学院教育学研究科 准教授

### ●デザイン

鍋田哲平デザインオフィス

### ●イラスト

坪本幸樹

